

令和2年度病害虫発生予察特殊報第7号

令和3年3月26日
静岡県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 病名：オリーブ立枯病
病原菌：*Ralstonia solanacearum*
- 2 発生作物 オリーブ
- 3 発生経過
 - (1) 令和2年8月、静岡県西部地域のオリーブほ場において、葉枯れ、樹木全体が萎凋枯死する症状(図1)が認められた。症状のみられた樹は枝や幹の木部が変色しており、変色部からは菌泥の漏出(図2)が確認され、細菌が分離された。
 - (2) 変色部から分離された細菌を名古屋植物防疫所に同定依頼したところ、*Ralstonia solanacearum*, (phylotype I, biovar 3) と判明した。
- 4 発生状況
本病はブラジル、中国などで確認されており、国内では平成30年に香川県で初めて発生が確認された。その後、鹿児島県、宮崎県、広島県で発生が確認されている。
- 5 病徴
 - (1) 罹病樹では葉枯れや落葉、果実の萎凋(図3)が生じ、その後、枝や樹木全体が枯死する。
 - (2) 症状の出ている枝や幹を切断すると木部が褐色に変色(図4)している。
- 6 病原菌の特性
 - (1) 本病原菌である *Ralstonia solanacearum* に起因する病害は、青枯病としてジャガイモ、トマトなどのナス科植物をはじめ、バナナ、ショウガ、ダイコン、イチゴなど非常に広範囲な植物で発生することが知られている。また、本細菌は熱帯～温帯地域を中心に世界各地に分布する。
 - (2) オリーブにおける感染経路は明らかにされていないが、一般的には土壤中に生息する本細菌が植物根部の傷より侵入する。その後、維管束部で増殖することで水分の移動を阻害し植物体を萎凋させる。
- 7 防除対策
 - (1) オリーブにおける本病の登録農薬はなく、加えて本病原菌を土壤中から完全に除去することは困難であるため、防除方法は耕種的防除のみとなる。
 - (2) 発病樹は速やかに抜根し、除去する。残渣はほ場内に放置せず、焼却するなどして適切に処分する。
 - (3) ほ場へ出入りする時は、本病または青枯病の感染ほ場に由来する植物残渣や土を衣服や靴から十分に落とし、靴、手袋等は消毒(70%エタノールや次亜塩素酸ナトリウム水溶液の噴霧)を行う。

- (4) 管理作業によって、病原菌が樹液とともにハサミやノコギリなどの道具に付着し、健全株に二次伝染する。そのため、使用した道具の消毒を徹底する。また、感染が疑われる樹は剪定等の作業を最後に行う。
- (5) 本病害の既発生地より苗の導入をする場合は十分に注意するとともに、過去にナス科作物等での青枯病や、本菌を原因とする病害が発生したほ場での栽培は避ける。



図1 枯死症状を示すオリーブ

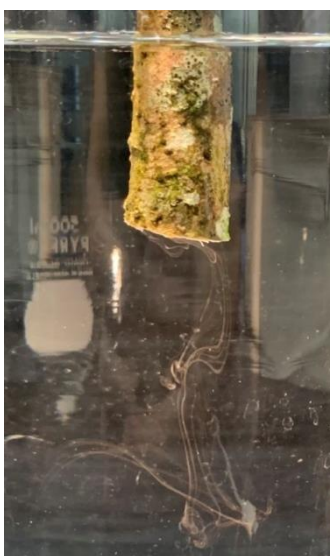


図2 オリーブ枝からの菌泥漏出



図3 葉枯れ、果実の萎凋症状



図4 変色したオリーブの枝断面

問い合わせ先： 静岡県病害虫防除所

TEL. 0538-36-1543